



毎月十五日発行 発行所 社会大像 宗像 電話 0940-62-1311代 定価 一年送料共 1000円

神具、装束 株式会社 井筒 福岡市博多区東公園二一三(一) 電話 0940-651194 五〇六番

行齋祭月皐



五月五日・子供の日、初夏を告げる恒例の皐月祭が、神湊の浜宮、並びに江口の皐月宮でそれぞれ斎行された。当日、午前十時浜宮祭を、午後二時江口祭を、それぞれ斎行された。心配はなくなり、定刻通り行われた。

皐月祭は、古くは「五月会」と呼ばれ、秋の「放生会」に代るものであった。当時の祭には、第一宮・第二宮・第三宮・織姫宮・許嫁宮の五社の神輿が、御神前には、海川山野の御神前に加え、赤飯・菖蒲酒・粽・ガメの葉饅頭等も供えられ、宮司祝詞奏上に続き、宗像大社氏子代表が始め、参列者の玉串奉進が行われ、敬虔な祈りが捧げられた。祭典終了後、参道脇の相撲場では、参列した子供連名による奉納相撲大会が行われ、元気のよい子供達の熱戦が繰り広げられ、大いに賑わった。



この皐月祭は、古くは「五月会」と呼ばれ、秋の「放生会」に代るものであった。当時の祭には、第一宮・第二宮・第三宮・織姫宮・許嫁宮の五社の神輿が、御神前には、海川山野の御神前に加え、赤飯・菖蒲酒・粽・ガメの葉饅頭等も供えられ、宮司祝詞奏上に続き、宗像大社氏子代表が始め、参列者の玉串奉進が行われ、敬虔な祈りが捧げられた。祭典終了後、参道脇の相撲場では、参列した子供連名による奉納相撲大会が行われ、元気のよい子供達の熱戦が繰り広げられ、大いに賑わった。

この故事を今に伝え、毎年約川を挟んで対する、浜宮並びに皐月宮に於て、当大社と両宮の氏子住民挙げての祭典を行っている。また江口の江八幡宮境内にある古宮でも、同区の氏子多数の参列のもと祭典が斎行された。

この三月におこなわれた卒業式で、島県内の県立高校など五十四校が、公用文の表示方法を「昭和」と元号表示することと定めている。卒業証書の発行年月日を「一九八七年」と西暦で表記して交付。これをたしなむて、今後不安を感じさせる点も少なくはない。

法については各公的機関にまかせて、政府として特別の指導をおこなってはいないとか、現在、元号表示による卒業証書の様式を元号表示によるものと定めているのは十二、四月の一だの二だのとは、また、今後に不安を感じさせる点も少なくはない。

西暦表示の卒業証書の問題

元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。

元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。

元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。

元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。

元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。元号法は、たしかに新元号の決め方について定めた本文二項と附則二項よりなる。

余滴

新緑の季節を迎え、各地、藤の名所の花だよりが聞かれるが、当社心字池ほとりの藤棚の下でも、しばし花を愛でる参拝者の姿が多く見られた。「古事記」には秋山之下氷柱夫(したびおとこ)と春山の霞柱夫(かすみおとこ)という兄弟神が、イソシオトメという美しい乙女をめぐって妻争いをするが、弟神は藤からて衣服と弓矢を作り、そのいでたちで乙女の家を訪れると、怒りに藤の花に変わり、花の魅力で妻を得た話がある。これに藤は、古話より藤は美しい花として愛されてきたことがわかる。黒田如水(官兵衛)は、中年時代、秀吉の参謀として、中平定に從軍中、かつての親友で毛利方に通じて反旗をひるがえした荒木村重を翻意させるため、城守で敵城に向かい、城に入らなかつた捕えられて城内の牢に閉じこめられた。この牢は沼地と竹藪に囲まれた日当たりの悪い、一年間の獄中生活を送るに耐えかねた。ここで、この間に身体は衰え、頭髪は抜け、右膝は腐って立つことも出来ない状態になった。彼を慰め希望を与えてくれたものは、牢の格子にかけた、もろい可憐な花をつけた藤であった。幽閉一年、彼は奇蹟的に救出されたが、もしこの獄中で死んでいたら後の黒田五十二万石は存在しなかつたであろう。如水が獄中でみた藤の花の感動を忘れないために、黒田家の家紋は、それまでの黒熊の紋から「藤巴」に変更されたという。

第三〇回 宗像大社歌会詠草 自由ヶ丘 後藤 君代 去年ありし所に一人静しく 絶ゆることなく殖ゆること なく (評) 一昨年もそこに咲いたであろう一人静への愛情が伺える。下句の手法は類形があるが此の場合、一首の中に無理なく融和し、味わいを醸し出す。 東 郷 藤崎 辰子 肩すくんだりたる夫のせい 髪は毛より思ひは遠い過去 夕に落ちて光る白き髪 の毛 (評) 一瞬に感受した白い髪は毛より思ひは遠い過去夕に落ちて光る白き髪を、この向に夫をねかせし姿は眼裏深く消ゆることなく 宮 田 片山 朝子 しみじみ語り合いたき年 にして征きしに夫よ面はおぼろに (評) 初句の実感を具象適確に、二三句が助け。但し「忙しき日々」が未だこなれていない感じが、一考を要しよう。一ことが一首を生かすもする殺しもある。 徳 重 石松や寿子 暖冬に安値のつづく慈れ ども取らねば坊主が頭出し くる 鐘 崎 安永 久子 吾が編みし襟巻つけて喜び し編の葬(はふり)雨の午後ゆく 大 島 中村さつき 久々に降る雨畑に潤ひて昨日 施肥せし非の勢ふ 大 島 屋形とみえ 野いちごの花白々と陽に光る 墓への小路親しみ登る 田 熊 頭丸かつ代 はじめての病院に来ておちつかず血圧幾しりるむりゆく (評) 大比叡の若葉の淡へかろやかに投げしかわら風に乗る

新緑萌える筑前大島

沖・中両宮春季大祭



大島と沖ノ島の二つの離島からなる大島村、その筑前大島に於て、沖津宮並中津宮の春季大祭が四月十一日と十二日の両日にわたり盛大に斎行された。

大島と沖ノ島の二つの離島からなる大島村、その筑前大島に於て、沖津宮並中津宮の春季大祭が四月十一日と十二日の両日にわたり盛大に斎行された。

祭を斎行、午後五時、大島北側にある沖津宮通拝所と中津宮に於て、それぞれ宮祭が斎行された。

四月十二日、午前八時半より大島東側宮崎区にある末社敷島神社で春祭りが行われ、今年の大漁・海上安全が祈願された。

午前九時、沖津宮通拝所に於て春季大祭を斎行、白波の立つ女界灘まで四十九キロ先の、沖津宮へ神輿が供えられ、宮司祝詞奉読、巫女二名による「浦安の舞」とつづき、春霞の海の彼方、沖津宮に祭員並参列者一同、玉串拝札を行い祭典を終了した。

今上陛下御生誕の慶日にあたる四月二十九日、昭和六十二年度宗像大社奨学金受給生奉告祭が、天長祭に引続き斎行された。

今日午前十時半に集集した、新一年生二十名と二・三年生二十二名を始め、父兄並びに出身中学校の先生六十二年度宗像大社奨学金受給生奉告祭が、天長祭に引続き斎行された。

宗像大社 奨学金受給生奉告祭 玉串を奉奠、代表者にあわせた四月二十九日、昭和六十二年度宗像大社奨学金受給生奉告祭が、天長祭に引続き斎行された。

厳そかに

天長祭斎行

去る四月二十九日、天皇陛下は八十六才の御誕生日をお迎えになられた。

浦安舞は紀元二千六百年奉祝会により制定されたもので、元宮内省楽長・多忠朝氏の作によるもので、神楽歌は今上陛下の万代に世界の平和の基を築かむと祈念される御心を歌ったもので、舞はまず扇、続いて鈴にて舞われた。

天皇陛下は満八十六才の御高齡にもかかわらず、おうれしく思います。これからも皆が幸せであるように希望します。」とマイクを通してお礼の言葉を述べらる。

宗像大神の御加護を願う 宗像大神の御加護を願う 宗像大神の御加護を願う

各地宗像神社春祭斎行 各地宗像神社春祭斎行 各地宗像神社春祭斎行

門司宗像神社春祭 門司宗像神社春祭 門司宗像神社春祭

新出光石油春祭 新出光石油春祭 新出光石油春祭

宗像大社 宗像大社 宗像大社

宗像大社 宗像大社 宗像大社

三十六歌仙扁額

絵馬をみていく

松子

三十六歌仙扁額が、玄海社は、どこにでもかならず大井田の葦木神社、宗像町八丁の和歌神社、福岡町八丁の和歌神社等、の扁額が並ぶ。これは、民衆の生活史を解明していくための民族資料としても、大いに活用していくことが出来る。日頃はいくつひと出入りしない閑静とした境内ではあるが、年に一度の大祭、いわゆる村まつりともなれば、「何処にこれだり歌仙がいたか」と思われるような人だかりを見せる。

近年までは何処の神社にも、大型・中型の絵馬が奉納され、軒を列ねて並べられていた様子は、その形をみるとうなずける。月日が経ち朽果て、取片附けられていたであろうが、現存する絵馬の中には最近の奉納の物を見ることがほとんどない。この現象は社会全体の風潮からしても、農村・漁村の間、目的のないあこがれで都会へ出ていき、脱田舎思考の一つの表れでもあろう。また一方、核家族主義が広まり、一戸一世代の少数制が徹底すると同時に、政府統計でも大きな数字が示すように、内外各地へ一人て転動していく単身赴任の連続という、民族移動現象その一つの現象である。

これは文化を単一化し、各地に伝えられた民俗伝承が消え、地域の伝統がなくなつたことをよく表わしている。今ほどのようにされているかわらないが、絵馬に於いての、子供の頃のなつかしい思い出を追ってみたい。そこは、福岡市近郊の農村である。昔から米の収穫が多いと言われ、見渡す限り水田が連なる稲作中心の地域である。ここでの生活史を解明していくために、民族資料としても、大いに活用していくことが出来る。日頃はいくつひと出入りしない閑静とした境内ではあるが、年に一度の大祭、いわゆる村まつりともなれば、「何処にこれだり歌仙がいたか」と思われるような人だかりを見せる。

宗像大社 宗像大社 宗像大社

宗像大社 宗像大社 宗像大社

五十年前の赤間の街並

宗像市役所が写真集を復刻



宗像市の五十年前の様子を記録した写真集(宗像市赤間・神山写真館製作)が発見され、このほど宗像市企画広報係により三部復刻された。

福岡市・北九州市のベトナム市として近年目指し発展を遂げている宗像市では、宅地造成、住民生活の充実に伴う公共施設の建設などにより、地域環境、街の様子などが著しく変化しており、同市では以前から街の変化を記録し続けると共に、古い写真や資料の収集を行って来ている。今回の写真集発見もそんな中で見つかったもので、福岡教育大学職員の内尾等氏が所蔵しているとの情報を得、同氏より借り受けて復刻して、ただもう、聞くことだけで、終ってしまったような気がしています。

学生気分が、十分にぬきられないままに、就職してしまつたので、いつも「ダメだなあ」と思いつつ一ヶ月がたちました。まだ、どこかお客様気分です。十分に、とけ込めずいます。

新人紹介(一)



大島 京子
おおしまきょうこ

昨年大晦日より職員として勤めさせていただいています。私は幼稚園・小学校一年までと大社の境内をとおって通学してまいりました。又、いろいろなお祭・行事にはよく連れて来て下さり、戸惑いばかりの毎日です。社はとて身近に感じています。その大社にこのようにご縁をいただきたいような喜んでます。ちょうど忙しい時期に入社し、最初は戸惑いばかりでしたが巫女さんをはじめ職員の方さ

石松 撰子



四月の初めには、研修などがあり、「お社とは」とか、「巫女さんの仕事は」とか、様々な、初めて聞かされた事や、覚えなければいけない事がたくさんあり、大変です。よろしくお願いします。

新緑の御社頭に於て、春秋恒例の出光興産株式会社店主室教育研修が、四月二十一日より二十四迄の、三泊四日の日程で執り行われた。

この店主室教育研修は、同社に入社後十年・十五年秋恒例の出光興産株式会社店主室教育研修が、四月二十一日より二十四迄の、三泊四日の日程で執り行われた。

刻したものである。仲尾氏はこの写真集を、市内の古本屋で見つけ購入されたものであるが、製作した神山写真館にもなく、同市の五十年前当時の様子を知る上では貴重な資料でもある。写真集は、紺色の布表紙に「郷土あかま、2597 昭和十二年」と明記されており、三十ページ、六十点余りの写真を掲載している。「2597」は皇紀年号であり、皇室と国民が一体となって我が国の本来の姿を記録と維持し続けて来た、祖先の精神をこの表紙から窺い知ることが出来る。掲載されている写真は、宗像市の自然、静かなたたずまいを見せる当社社内、画面へ

釣川の流れや、旧赤間町役場を始めとする、戦前の宗像、赤間地区の主な建物、神社仏閣などで、半世紀前の地域の様子や人々の生活が記録されている。五十年前当時の様子を知っている人にとっては、写真集のページをめぐって、逆戻りしたような気持ちになり、懐かしさをおぼえるのは確実ではないかと思われる。

宗像市では、写真集を復刻した際の転写フィルムを保存しており、写真集希望の方があれば、新たに復刻版を製作することもできる。お問い合わせは宗像市役所企画広報係へ

宗像市では、写真集を復刻した際の転写フィルムを保存しており、写真集希望の方があれば、新たに復刻版を製作することもできる。お問い合わせは宗像市役所企画広報係へ

第三十四期

出光興産店主室教育研修

新緑の御社頭に於て、春秋恒例の出光興産株式会社店主室教育研修が、四月二十一日より二十四迄の、三泊四日の日程で執り行われた。

この店主室教育研修は、同社に入社後十年・十五年秋恒例の出光興産株式会社店主室教育研修が、四月二十一日より二十四迄の、三泊四日の日程で執り行われた。

この店主室教育研修は、同社に入社後十年・十五年秋恒例の出光興産株式会社店主室教育研修が、四月二十一日より二十四迄の、三泊四日の日程で執り行われた。

この店主室教育研修は、同社に入社後十年・十五年秋恒例の出光興産株式会社店主室教育研修が、四月二十一日より二十四迄の、三泊四日の日程で執り行われた。

この店主室教育研修は、同社に入社後十年・十五年秋恒例の出光興産株式会社店主室教育研修が、四月二十一日より二十四迄の、三泊四日の日程で執り行われた。

中津宮への奉賛

敬神崇祖の島

大島からの便り

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

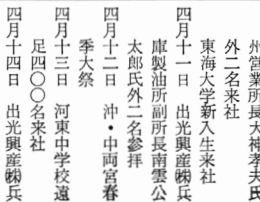
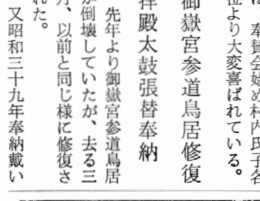
御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。

御社に参拝して、不馴れな行事には奉賛会役員が指導を受け、双方互に氏子として協力され、中津宮護持運営に大きく貢献された。佐分利子氏より奉納された。



おしらせ

毎月一回木曜日の夜国宝への旅が放送される。梅雨も上がり海の季節に入る七月初旬、「宗像大社・沖ノ島」が登場する。宗像大社が誇る沖ノ島祭祀神聖十二万点は、全国宝・重要文化財である。豪華さと数量は他に類をみることが出来ない。古代人は自然と共に歩み、海神への祭りを思い起こしながら、古代の大陸安産に於ける宗像の位置と、宗像三女神の果たしてきた役割とを沖ノ島の祭りを中心に取り上げていく。

社務日誌抄

四月一日・二日 宗像大社春季大祭
交通安全講話兼並献
若布採取功労者表彰式
四月一日 奉納剣道大会
奉納吟詠大会
四月二日 宗像國神社春季大祭
四月三日 伊豆善也福岡県議会議員候補参拝
王子神社参拝
福岡県立少年自然の家
「玄海の家」所長森家六氏赴任挨拶・前所長佐藤孝雄氏赴任挨拶の為来社
四月四日 出光興産福岡支店新入女子社員参拝入社奉告祭
入社奉告祭
地元総代・協力会並神社職員懇談会
神楽・池田・宗像市・津屋崎町各地区四十四才同好防衛団除祈願祭
玄海町消防団長品川勝昭氏就任祝賀会
四月五日 宗像西鉄タクシー配車人熊谷美氏外三十名参拝
四月六日 皇学館大学教授真弓常忠氏夫妻・令嬢参拝
四月七日 出光石油開発常務取締役行洋一氏外一名参拝
四月八日 宗像大社春季大祭
四月九日 出光興産福岡支店長長谷川氏外十一名参拝
四月十日 清水建設福岡九州営業所長大村孝夫氏外二名参拝
四月十一日 出光興産福岡支店所長副所長長谷川氏外二名参拝
四月十二日 沖・中両宮春季大祭
四月十三日 河東中学校遠足
四月十四日 出光興産福岡支店所長副所長長谷川氏外二名参拝
四月十五日 月次祭
城山中学校遠足八〇〇名来社
四月十六日 織福神社春季警察庁警視長兼元俊徳氏・宗像警察署長安村隆司氏外三名参拝
四月十七日 宗像高校遠足二五〇名来社
四月十九日 八幡宮神幸祭
箱崎四十四貫中西会九〇名参拝
宗像市調製所調製部喜一氏夫妻来社一〇〇個奉納
四月二十一日 出光興産福岡支店所長副所長長谷川氏外二名参拝
四月二十二日 出光興産福岡支店所長副所長長谷川氏外二名参拝
四月二十三日 出光興産福岡支店所長副所長長谷川氏外二名参拝
四月二十四日 出光興産福岡支店所長副所長長谷川氏外二名参拝
四月二十五日 東京都法華山王清浄講社講員五〇名参拝
四月二十七日 福岡海上保安部所長長谷川氏外三名参拝
四月二十八日 下関市神霊研究会会主西日龍昇氏厚礼奉納
四月二十九日 天長祭
宗像大社春季大祭奉告祭

宗像大社歌会 俳句作品集(三)

鐘崎 岩瀬 辰夫
宮の桜三日見ぬ間に開き居り

福岡中央 力丸 玄風
唄りの真つた中に朝の荘

田熊 安部 ゆき
長閑さよ結納ならべ孫婚儀

津屋崎 西住善三郎
春愁や石にかえりし石仏

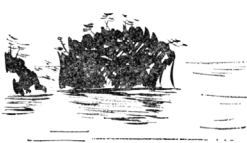
田熊 力丸 一郎
曾孫に早くもたち廻のほり

池田 小田しめ
青き踏むとも稀なる瀟路
みち

福岡 広渡一寿軒
高らかに雲雀のり来る春の
風

津屋崎 井浦 良介
日程表組む僕らの夏がしの
び寄。

藤沢 井上 玄洋
落花舞ふ高き岩肌斜交ひに
名古屋 野崎 傳三
万緑(まんりょく)の齊苑
や寄進の筆はこぶ



(続)

浜の寄物

17

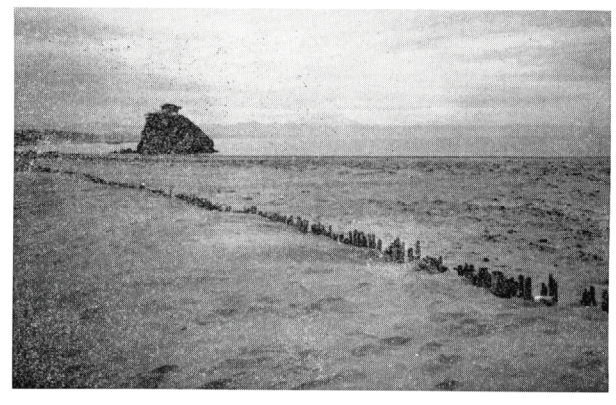
海漂器(山陰海岸へ)

いしいただし

神戸(かんと)川を渡る。大社参拝、名物のソバを
と、稲佐浜と出雲大社、宿 食べ、宿をさがす。観光客
泊地に最も近いのだが、川は予想に反して少なかつ
ては深く、幅も有り、徒歩 宿はどこもが空きて
で渡るのは無理である。近 くに橋はないので、松林を
抜けて集落の方へ歩いた。 途中で人に聞くと、パスは
廃止されたという。地図を 見ながら、出雲大社の方を
目指して歩く。十キロの砂 地を歩いて来ただけに、舗
装された道路を歩くのは苦 にならないが、春休で宿
がないかも知れない心配が あった。はるか彼方に大社
の鳥居らしいものが見え る。鳥居らしいものが見え
るところまで来た時、運よく タクシーが通りかかり、そ
れに乗った。

なり雨が落ちはじめたが、 幸いすぐにやんだ。砂浜は 狭い。海岸は浸食がひどく 各所にテトラポットを投入 したり、コンクリートの防 潮堤が無残にも崩壊してい るところもあった。
漂着物はここでも韓国製 の品が主であったが、ココヤ シの皮も多く見られた。
都野津付近の浜は幅広い が、松林がない。直接、浜 の横には国道が走り、低平 となっている。満潮時には 波形に漂着物が寄ってこ いる。それにしても、舟りの車 窓でも気になったが、松枯 れはひどく、伐採もされず

立枯れのまま放置されてい るのが多い。
都野津から益田へ。一五 時三十分の特急に乗り、黒 崎へ一八時三十分、のりか えて福岡に着いたのが一九 時七分だった。
駆け足の旅だった。名所 旧跡をさげ、ただひたすら 海岸歩きをした。
そしておびただしい量の 漂着物を目にした。世界も 多いと思ったが、その量も 比ではない。それは半島・ 大陸との密接さを感じさせ るに充分だった。
明石原人の発見者として 知られた故直良信夫先生か らいただいた手紙のことが 思い出された。先生は早稲 田大学を定年退職された後 出雲で晩年をすごされた。
その頃にいただいた手紙で ある。
「海岸へ出ましたところ 朝鮮半島からの漂着物が、 あまりにもたくさん流れ着 き、渚に打ち上げられてい るのに驚きました。これじ ゃ、大陸文化だって存外



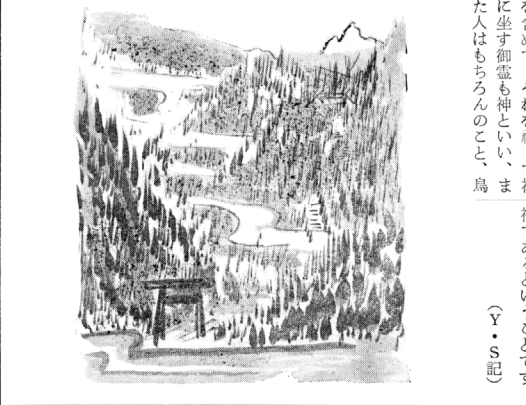
北九州以外の日本海岸にも 陸揚げされる機運があった のではあるまいかと存じ、 今後大陸との関係をも (写真は稲佐浜)

まつりと生活(六)

神様の種類

古い歴史を持つ国や民族 の間には、それぞれに崇拜 する神様があります。外国 例で言えば、ギリシャに みられる有名神像が、多ク という形で今日まで、彫刻 残されています。
日本では、天孫降臨以来 の神話や伝説にてくくる神 様が、全国の神社に祀られ ています。その主なものは、伊勢の皇大神宮に祀ら れている天照大神をはじめ 出雲大社の大國主命や須佐 之男命を祀っている水川神 社など、同じ祭神を祀る神 社は全国にたくさんありま す。その数は非常に多く、 八百八神といわれるほどで す。
これらの神々の他に、日 常的な神がいろいろあつて 仮に分類してみますと、ま ず、自然を神格化したもの が月神、星神、風神、雷 神、雨神や、山神、田神、 海神、水神、火神、それに 動物神、植物神などがあり ます。つまり天地を形づく る自然界をすべてを神とし ています。
水神は井戸神、川神、ま たは池の神などまつる場所 によっていろいろ呼び名が 変わっています。魚、竜な どは水神の化身といわれて いて、雨乞いやその反対に 雨を止める祈願の対象の神 であり、稲作の上で田の神 とも深くかかわっている神 として農耕民族であった

日本人は、必死になって豊 作への祈りと、願いを捧げ てきたのです。その流れが 時代とともに形こそ変えて きたものの、いまでも氏神 信仰と行事に引継がれてき ています。
次に、人間神として、男 神、女神、父神、母神、祖 先神や英雄神などがありま す。また教祖、聖人など の神格化したものもありま す。菅原道真や徳川家康な どがこれにあたります。
また、現代生活の中に深 くかかわっているものに、 農業神、商業神、工業の 神、航海の神、縁結びの神 疫病の神など、なんらかの 形で生活に直接かかわりの ある神があります。
このように日本の神はた くさん存在しています。そ して、神々はそれぞれ分け 野を分担して、祈願を聞き 分け、神徳を授けてくれま す。
日本の神は靈性のあるす



すべてのものが神となりま す。このことを本居宣長は 次のように述べています。 次のお話には、古くからの書に書かれ ている天地の諸々の神たち を含めて、それを祀って、ま た人はもちろんのこと、鳥 獣草木のたぐい海山など、 そのほか何でも、世の常な らずすくれている徳のある 可畏きものを神といふ。 (約四百年前) つまり霊感をあらわすも のであれば、自然の万物が 神であるということです。 (Y・S記)

宗像むかし話

御山の忍照さん

(19)

宗像大社の境内に建立さ れた「萬葉歌碑」によつて 一躍有名になった勝浦と田 島にまたがる名見山、その 名見山の西側の麓に「御山 円通寺」がある。
この寺は昔は観心庵と いった。観心庵は約二百 年前に当時の藩主の許しを 得て、遠賀郡の高倉神社の 本地院であった想知院とい う寺が陸寺に なっていた。
この寺を興 した人を永島 半次兵衛とい う。勝浦の旧 家永島家の遺 祖にあたる。 永島家は宗像 大宮司家が盛 んであった頃 (約四百年前) の天正年間) 宗像大社の神 領であった遠 賀郡の一部を 領していた。
そして今、 勝浦の辺に移り、間もなく 主家である宗像大宮司家没 落とともに帰農したものと いう。それが下つて今のべ 半次兵衛の時に大層栄え えた。近在並ぶ者がない程 の富豪となった。半次兵衛 に三子あり、半兵衛、半四 郎、半五郎がそれぞれあり、 夫々一家を立てて三家が鼎 立した。子供たちの行末を 見届けた半次兵衛は、そこ を隱退して剃髪した。
想知院を開いたのはこの忍 照である。
想知院は眞言宗で、はじ めは糸島郡雷山の末寺とな ったが後に専ら田島の鎮 国寺の末寺格となつてい る。信仰中心の寺であつた ために檀家を持っていな かった。 但し想知院建立の時には 自活出来るように田畑を所 有していた。が今は開放さ れてそれも無い。わずかに 法灯だけが絶えずに春秋の 行動範囲は勝浦は勿論、 奴山、生家、大石、須多田、 神湊、江口、牟田尻、深田 に迄及んだ。 托鉢の物資 はすべて部落 に施した。部 落の者もそれ を徳とし、部 落共有財産と して貯蓄し、 田畑を買って 産子養育田と 名付けた。現 に奴山の一部 にその名称が 残っている。 妊婦に約束 した産着も年 間何百枚にも 達したとい う。「木綿二 尺」で仕立て たことが記録 に残ってい る。忍照さん が家族並びに 各部落に中 出家意の「控 書」の残りに 見られる。 異常なほどの熱心さが窺 えて興味深い。沙弥忍照円 慶と署名のある寄附名簿 はか沢山の古文書類も永島 意の助氏の家に伝わってい る。
産子養育会をつくつて、 郡内の人心と物資をまとめ た功績は大きい。まさに宗 像郡の誇りとすべき社会慈 善事業の先駆者といえよ う。



御山の忍照さん